

# 第 10 回 西日本インカレ（合同研究会）専用企画シート

必ず「企画シート作成上の注意」をご確認いただき、ご記入をお願いいたします。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
コウナンダイガク	ケイエイガクブ	オクノ アキコ
甲南大学	経営学部	奥野 明子 ゼミ

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）
ソレユケ！ウランちゃん！	オオハタ リク	3
それゆけ！ウランちゃん！	大畑 陸	

## 研究テーマ（発表タイトル）

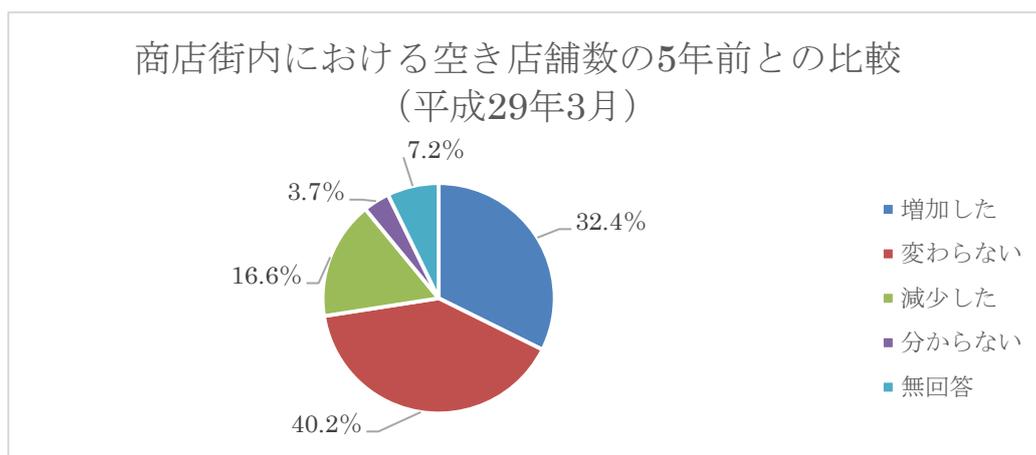
RECOM book café

### 1. 研究概要（目的・狙いなど）

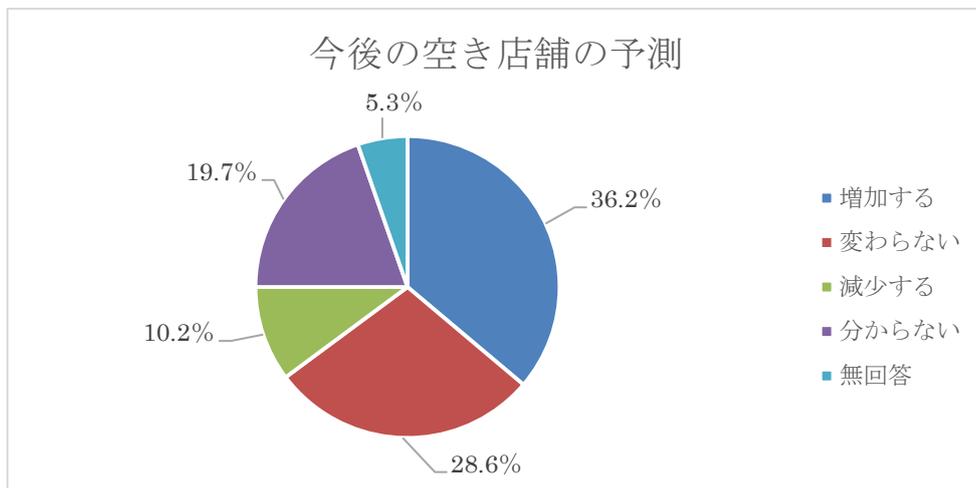
私たちは、現在使われていない施設の有効活用というテーマの下、解決案を考えてきた。調べていき、街を探索するうえで私たちの中で「長田の商店街」が目に入った。長田の商店街は空き店舗が多く、活気がなかった。そこで私たちは大型ショッピングモールや百貨店にはない「商店街の良さ」を活かし、さらには「商店街の新たな価値」を創造することで商店街の活性化を図った。

### 2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

現在の商店街は利用者が減少して、活気がなくなり、衰退が進んでいる。おもな原因は、大型ショッピングモールや百貨店、ネットショッピングの普及が関係していると考えられている。これにより、空き店舗率が増加傾向にある。中小企業庁が平成 29 年 3 月に空き店舗率の変化を表したグラフがある。それが下記のグラフだ。



これは中小企業庁が全国に対してアンケート調査を行ったものだ。このグラフから分かるのは空き店舗の問題が解決されていないということだ。グラフの数値から考えても、約 7 割の商店街が空き店舗を抱えている。これは大型ショッピングモールや百貨店、ネットショッピングの普及が原因だと考えられる。また、同じ調査に次の様なアンケートがあった。



このグラフから「増加する」が36.2%、「変わらない」が28.6%である。この数字から見て今後ますます空き店舗率の増加が考えられる。空き店舗をなくすには、大型ショッピングモールや百貨店、ネットショッピングにない店舗を作る必要があるだろう。

### 3. 研究テーマの課題

先ほどのグラフから考察し、私たちは大型ショッピングモールや百貨店、ネットショッピングにない店舗を空き店舗に作る必要があると考えた。そのためには、本来の「商店街の魅力」を活かし、さらには「商店街の新たな価値」を創造することが「商店街の活性化」につながると考えた。

そもそも「商店街の魅力」とはなにか。それは「人のあたたかさ」であると考えます。商店街は大型ショッピングモールなどに比べて、人情あふれる商売を行っている。例を出すと、時にはサービスしてもらったり、店主に今日のおすすめを教えてもらったりといった点である。毎日利用することで、信頼関係を構築され、商店街への買い物「コミュニティの形成」につながる。この「コミュニティの形成」が「商店街の活性化」につながると私たちは考えた。

続いて、「商店街の新たな価値」だが、これの鍵になるのが「サードプレイス」だと考えた。「サードプレイス」とは自宅でも職場でもない第3の場である。現代の日本では労働環境により、毎年多くのビジネスマンがうつ病などのストレス症状により職場を離れ、自殺や過労死によって尊い命が失われている。この現状からストレスを軽減する自宅や職場でない第三の場が必要になっている。それを可能にするのが「サードプレイス」だ。

これらをふまえると、「サードプレイス」は需要があると考え、「サードプレイス」を新たな価値として考えた。これらのことから「コミュニティの形成」という本来商店街にある魅力と「サードプレイス」という新たな価値を創造することで、「商店街の活性化」が期待され、この2つの要素を兼ね合わせた店舗を考える必要がある。

### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

「コミュニティの形成」と「サードプレイス」、この2つを合わせたのが「RECOM Book Café」だ。この店舗はまちライブラリーとブックカフェを合わせたものである。そもそもまちライブラリーとは「カフェやオフィス、個人宅、寺、病院などの街の一角に設置された図書館」の事である。まちライブラリーの特徴は仕組みにある。仕組みとは、本を持ち寄って独自の本棚が作られこの本棚をきっかけにコミュニティが形成される点があげられる。一方で、ブックカフェはカフェと本屋が合体したお店であり、心穏やかな空間（サードプレイス）が特徴である。この2つの特徴を組み合わせたものが、「RECOM Book Café」である。では、「RECOM Book Café」の本と資金調達の方法だが、本は主に利用者から持ち寄ってもらう方法で考えている。これは、本を持ち寄ることでコミュニティが形成されることのきっかけを目的としている。また本を持ち寄る方法で集まらなかった時の対処として、引っ越しの際に回収、寄贈箱の設置、廃校の学校から回収するという3つの方法を考えた。続いて資金調達方法だが、私たちはクラウドファンディングを活用する。クラウドファンディングを活用する理由は2つ。1つは、クラウドファンディングを利用することで宣伝効果になると考えたからだ。もう1つは、リターンを設けることで集客率の増加が期待される点だ。リターンは主に商店街の商品券を考えている。最後にランニングコストだが、2つ案がある。1つはカフェの売り上げで、もう1つはイベントを開催することで参加料の一部をもらう案である。

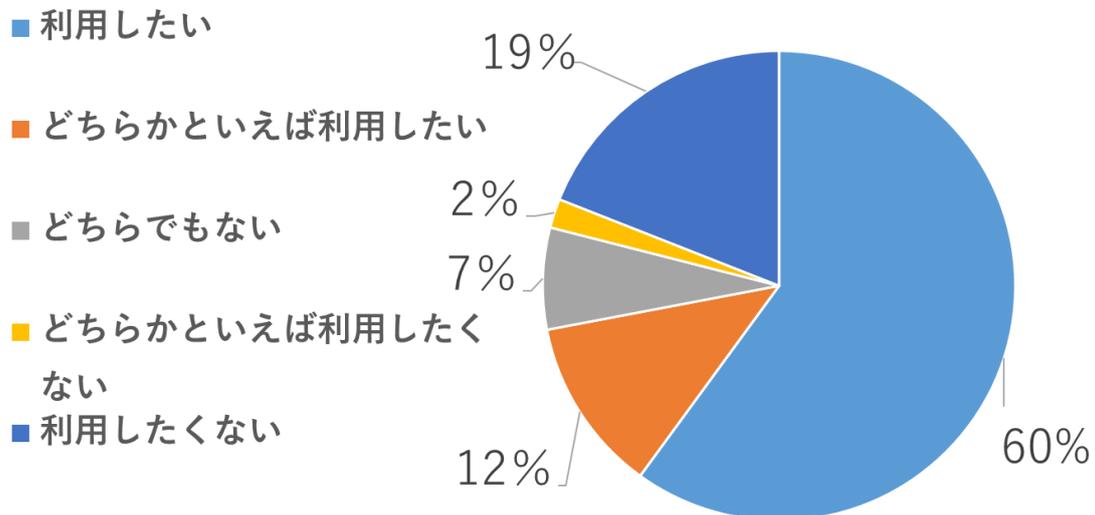
「RECOM Book Café」のもう1つの特徴は、「ジャンル別に本を置く」という点だ。こうすることで、より同じ興味や趣味を持った人が集まり、コミュニティが形成されやすくなる。また空き店舗が複数ある場合は空き店舗を複数借り、カフェ、本を置く場所と分ける

ことで他の商店街の店舗を回れるという効果も期待される。

これらの効果により、「商店街の活性化」につながると考えられる。

## 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

そもそも商店街に本の需要はあるのか。そこで私たちは神戸市長田区にある商店街「アスタくにづか」の利用者 100 人にアンケートを取った。結果は次のようになった。



「利用したい」60%、「どちらかといえば利用したい」12人と約7割が利用したいと答えた。このことから、商店街の本の需要は大きいと考える。

## 6. 結果や今後の取り組み

今後は今回のプレゼンで得た評価から改善を加え、実際に商店街に提案したいと考えている。

## 7. 参考文献

- ・ 磯井純充(2015)『本で人をつなぐ まちライブラリーのつくりかた』学芸出版社
- ・ 磯井純充・中川和彦・服部滋樹・トッド・ボル 他(2015)『マイクロ・ライブラリー 人とまちをつなぐ小さな図書館』学芸出版社
- ・ 山納洋(2016)『つながるカフェ コミュニティの<場>をつくる方法』学芸出版社
- ・ 日本ブックカフェ協会 HP <https://www.bookcafe-japan.org/> (参照 2019-08-27)
- ・ 西日本ブックカフェ協会 HP <https://www.bookcafe-west.org/> (参照 2019-08-29)
- ・ まちライブラリーHP <http://machi-library.org/> (参照 2019-08-29)
- ・ 株式会社くにづか HP <https://kunizuka.com/index.html>(参照 2019-08-29)
- ・ 神戸市 HP <http://www.city.kobe.lg.jp/ward/activate/participate/localdata/img/nagataku.pdf>(参照 2019-08-20)
- ・ 産経ニュース <https://www.sankei.com/life/news/170526/lif1705260046-n1.html>(参照 2019-08-30)
- ・ 中小企業庁 HP <https://www.chusho.meti.go.jp/> (参照 2019/11/6)
- ・ 大型スーパーやショッピングモールには無い商店街の魅力とは？  
[http://www.2005keio.com/syotengai\\_miryoku.php](http://www.2005keio.com/syotengai_miryoku.php) (参照 2019/11/7)
- ・ 知ってます？「サードプレイス」の本当の意味。8つの条件をクリアして、社会的・経済的価値を、より高める。次の時代のカギはココ！

●パワーポイント内に動画を使用されている場合、動画を使用しているスライドのページをご記入ください。

●発表時に使用する成果物 (例. 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査に使用したアンケート)

**【企画シート作成上の注意】 ※「第 10 回 西日本インカレ (合同研究会) 大会参加要項」も合わせてご確認のうえ、企画シートの作成を行ってください。**

- ・本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。
- ・本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、翌年 3 月に公開予定の「日経ビジネス電子版」にリンクされた特設サイトに掲載されます。
- ・本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ・本企画シートは、作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。
- ・大会参加申込み時点から、チーム編成の変更 (チームの人数・交代など) は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ・商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。
- ・書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先 (使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など) を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ・発表時に使用する成果物がありましたらご記入ください。記入がない成果物は大会当日使用することができません。また記入いただいた内容について、事務局から代表者の方に確認をさせていただく場合がございます。
- ・電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

---

↑ここまでを 4 ページ以内に収めて、提出してください↑